

TRANSITION TO HEALTH (102)

“ 新型コロナウイルス感染 ②8 ”

～ ワクチンの優先接種と医療崩壊、糖質制限と後遺症 ～

はじめに

私たちは「次に変異株が出現するとすれば南アフリカであろう」と考えていたが、案の定、先週（11月下旬）南アフリカ共和国から「変異株」感染が報告され、26日、WHOにより『オミクロン株（Omicron variant）』と命名された。このオミクロン株が、日本での「第6波」を形成することになるのかもしれない。

歓迎すべきニュースとして、静岡県立焼津中央高校が、PCR（遺伝子）検査の正確な意味を理解することを通じて科学を身近に感じてもらうと、PCR法を用いて自分の遺伝子を診断するユニークな授業を行ったことが報じられていた（右：毎日新聞デジタル）。焼津中央高校は2021年春、県教育委員会から「アカデミック・ハイスクール」に指定され、この事業の一環として、静岡大学農学部、清流館高校（焼津市）の協力を得て行われたものである（毎日新聞）。

「PCR＝コロナを調べる」は誤解 高校生がユニーク授業で実感



新型コロナウイルス感染拡大以降、すっかりなじみの言葉となったPCR（遺伝子）検査。「感染の有無を調べるための検査」と認識する人は意外と多くもれない。静岡県立焼津中央高校（焼津市）が正確に意味を理解することを通じて科学を身近に感じてもらうと、PCR法を用いて自分の遺伝子を診断するユニークな授業を行った。【深野頌之介】

これを契機に生徒たちが、さらに深く「PCR検査偽陽性」についても、自ら学んでいってくれることに期待したい。

PCR検査・・・「陽性」「陰性」判定は自由自在？

現在行われているように、PCR検査を感染症診断に誤用すれば、陽性・陰性判定は自由自在である。1）ワクチン接種者の感染者数を減らしたければ、接種者に対してはサイクル閾値（CT値）を（28サイクル）に下げればよく、2）未接種者の感染者数を増やしたければ、サイクル閾値（CT値）を（40サイクル）に上げれば、偽陽性が増えて新規感染者数を増やすことができる。一般的には信じがたい話だが、日本以外のどこかの国のどこかの機関では行っているとの情報がいくつもあった。

コロナ禍における近未来予測（仮説・個人的見解）

第6波が来るかどうかの議論があるが、オミクロン株の出現によりその可能性が高まったと思われる。下表は、オミクロン株の出現前に作成していたものである。

表の右欄5項目について説明しましょう。

アフリカ大陸で最もワクチン接種が進んでいたのが南アフリカ共和国である。

「もし、アフリカ大陸で変異株が出現するとすれば、それは南アフリカである」と考えるのがごく自然であった。なぜなら、「ワクチン接種が変異株を産む」からである。もし、オミクロン株が従来のインフルエンザなみの感染率・重症化率であるならば、日本では数千万人が発症し、関連死を

第6波は来るか？

(2021.10)
(2021.11追加)

ワクチン推進派

- ★ 第6波は必ず来る。
- ★ ワクチン未接種者は早く接種を！
- ★ 3回目（ブースター）接種を！
抗体価が下がってくるので、
予定より前倒しで、早めの接種を！
- ★ インフルエンザは・・・
昨年、流行しなかったので、今年は大流行が起こりうる。
- ★ インフルエンザワクチンの接種も！

ワクチン慎重派的思考(丸山)

- ★ ワクチン接種者からの変異株の出現で第6波は起こりうる。（ワクチン接種を中止していれば第6波は来ないであろう）
- ★ 3回目（ブースター）接種は、変異株を産むので行うべきではない！
- ★ インフルエンザワクチンは無効・不要。
- ★ 感染対策の徹底により、第6波もインフルエンザの大流行も阻止できるかもしれない。
- ★ ワクチン接種により従来のコロナウイルスが変異し、PCR検査を拡大すれば、第6波を（人為的に）形成できる。

含め 1 万人前後の人がシーズン中（インフルエンザの場合 12 月～3 月）に亡くなることになる。ウイルスは、人間という宿主に感染して共存したいわけであるから、ヒトの体内で変異したものが突然、強毒化するとは考えにくいと思われる。

下に掲げた「近未来予測 -1」は、ワクチン接種で作られる**スパイク蛋白**という**毒素**によってもたらされる副反応「**血栓症**」に関するものである。**イギリス**のある航空会社では、ワクチン接種後 4 名の**パイロット**が 1 週間以内に**死亡**したと伝えられ、その航空会社ではワクチン接種を**禁止**したことが報じられていた。ワクチン接種（2 回接種）完了者に、もし、副反応としての血栓症が発生した場合、表中に書いたようなことが起こるのではないかと危惧して作成したものである（2021 年 9 月）。

近未来予測 - 1（仮説・個人的見解）(2021.09)

- * ワクチン接種が徹底した航空会社の飛行機には**乗るな!**
(操縦中、パイロットが突然、血栓症を発症し、墜落???)
- * ワクチン接種後の運転手の**高速バス**には**乗るな!**
(運転手が突然、血栓症を発症し、事故に???)
- * ワクチン接種後の運転手の**タクシー**には**乗るな!**
(運転手が突然、血栓症を発症し、事故に???)
- * 運転中の**心臓発作**、**脳卒中**による**交通事故**が増える!?
(脳・心臓血管疾患が従来より**若くして**発症する???)

近未来予測 - 2（仮説・個人的見解）(2021.10)

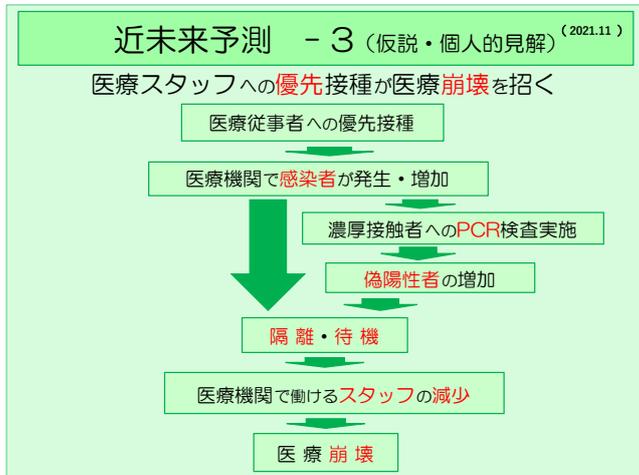
- * 今後も、ワクチン接種者の体内で**変異株**が出現する。
この変異株により接種者(2回接種、ブースター接種)に**ADE**(抗体依存性感染増強)が発生? ⇒ 重症化 ⇒ 死亡?
- * 寒期・気温低下により
ワクチン接種者に**血栓症**が発症する ⇒ 脳・心臓血管疾患 増加?
- * ワクチン接種者に**インフルエンザ感染**が**拡大**?
- * 急激な**癌**の発症!! (半年以内でいきなり Stage IV 報告有り)
(癌抑制蛋白の不活化、**ナガレス**によるビタミンD抑制、ワクチンの環状mRNAの存在)
- * **イベルメクチン**: **IVM** (Ivermectin) で回避できるか!?

左の「近未来予測 -2」は、ワクチン接種が先行していた**イスラエル**や**イギリス**からの情報、また、**ドイツ**や**アメリカ**からの情報

を基に作成したものである（2021 年 10 月）。アメリカのある医師・研究者は、ワクチン接種者では **20 倍も癌**が発生している、あるいは、**急激なスピードで癌が増殖**するなど報告していた。また、2015 年に**ノーベル生理学・医学賞**を受賞された**大村智**博士が開発した、オンコセルカ症（河川盲目症）、フィリアリア症などの治療薬『**イベルメクチン**』が、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に極めて有効であることが、世界中から報告されていた。これらの情報の多くは、マスメディアでは一切報じられず、また、動画サイトではチェックされ、すぐに削除されてしまっていた。

医療従事者への優先接種が医療崩壊を招く!?

接種後死亡事例として、「**副反応死**」としか考えられないような事例が 4 例、私の身近に発生している。ワクチン接種自体を早く中止して欲しいと願っているのだが、叶はずもない。副反応死が自分の身に（では遅すぎる!）、あるいは自分の家族・近親者に起こらな

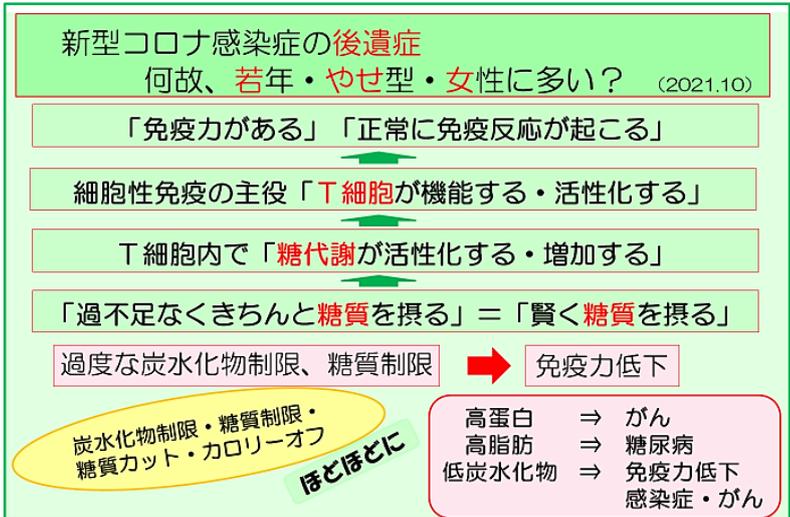


いと気づいてもらえないのかもしれない。今、医療従事者への **3 回目**の優先接種が検討されているようであるが、来年には、上図に示したような状況に陥ってしまい、市中感染者の増加によるいわゆる「**医療逼迫**」ではなく、**院内感染**により医療従事者が医療に携われなくなることによる「**医療崩壊**」が起こってしまうのではないかと危惧される。

新型コロナ感染・後遺症について・・・炭水化物制限、糖質制限 は ほどほどに

新型コロナ（COVID-19）感染症の後遺症は「若年者」に多いと報告されている。特に、「**痩せ型の若年女性**」に多いと言

われている。メディアに登場する感染症専門家は、「免疫反応の異常な亢進」により起こるもので、「若年者」の方が高齢者よりも「免疫応答が強い」ため、と説明している場合が多い。しかし、これだけでは、「**痩せ型の若年女性**に多い」ことの説明になっていないと思われる。私は「**炭水化物制限・糖質制限**」が「**後遺症**」と相関しているのではないかと考えている。免疫の主役は B 細胞がつくる「**抗体**（液性免疫）」ではなく、**T 細胞**を中心とした「**細胞性免疫**」である。右図に示したように、**糖質**をきちんと摂って、**T 細胞**の**糖代謝**を**活性化**させ、**T 細胞**を**機能**させることが重要である。「**蛋白質**」「**脂肪**」は摂り過ぎず、「**炭水化物**（=**糖質**+**食物繊維**）」をきちんと摂りましょう。



おわりに 紙面の都合で十分お伝えすることができないのが残念である。次回以降は、「ワクチン接種完了者で感染拡大」「高抗体価だけが免疫ではない」「イベルメクチンの効果」「不当なイベルメクチン迫害」などを予定しています。